3.2.4　供試油

試験用の規定油量である（150±5） ml に加え，フリクションプレートの浸せき用にも適量を準備する。耐久試験中の油量減少によって試験継続が困難となるような場合には，**3.3.5** を参照する。

3.2.5　標準油

供試油の性能を判定するために比較されるあらかじめ調整された自動変速機油を標準油と呼称する。標準油としては，T-III 又は RTF1 を使用する。代表性状を**表 1** に示す。

表 1－標準油 T-III 及び RTF1 代表性状

標準油名			T-III	RTF1
密　度	g/cm^3	15°C	0.874	0.849
動粘度	mm^2/s	40°C	41.5	29.9
		100°C	7.79	6.02
粘度指数			161	153
中和価	酸価	mgKOH/g	1.7	0.6
	塩基価（塩酸法）	mgKOH/g	1.4	1.5
	塩基価（過塩素酸法）	mgKOH/g	1.8	2.9

3.2.6　フリクションプレート，スチールプレート及び標準油の入手

フリクションプレート，スチールプレート及び標準油は，次の会社で入手可能である。

日産トレーデイング株式会社　原燃料グループ 燃料チーム
〒244-0805 神奈川県横浜市戸塚区川上町 91-1　BELISTA タワー東戸塚
TEL.: 81-（0）50-3360-2043　　FAX.: 81-（0）45-522-3618

試験準備

3.3.1　フリクションプレートの準備

使用するフリクションプレートは，試験前に最低 30 分間供試油に浸せきした後，紙ウェスで油分を拭き取る。フリクションプレートの浸せきに用いた供試油は試験に用いてはならない。次にマイクロメータを用い 90 度間隔で 4 ヵ所の厚さを 0.001 mm の精度で測定する。このとき，試験後同一箇所の計測が可能なように，計測位置の摩擦面以外の場所に印をつける。

3.3.2　スチールプレートの準備

使用するスチールプレートは，ヘキサンなどの有機溶媒にて油分を十分除去した後に乾燥させる。

3.3.3　試料容器の洗浄

試料容器及びジグ類は，ヘキサンなどの有機溶媒で洗浄した後に乾燥させる。

3.3.4　フリクションプレート及びスチールプレートの組付け

フリクションプレートをスプライン軸に，スチールプレートを試料容器側に組み付ける。その際は両プレートをきずつけないようにする。フリクションプレートに組付け方向はないが，スチールプレートは**図 4** を参考に組付け方向を決める。

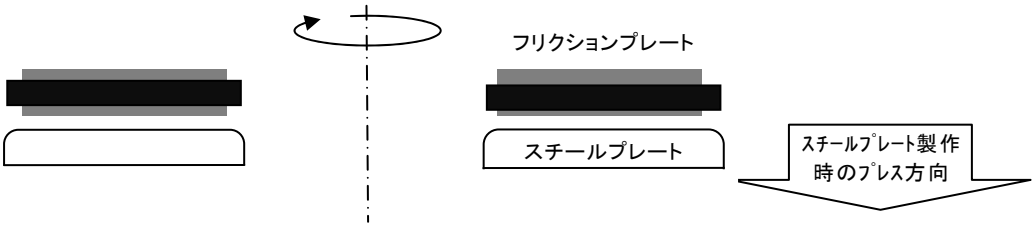

図 4－スチールプレートの組み付け方向（断面図）